

平成 24 年度

第 1 回

埋蔵文化財展示室更新検討委員会

議 事 録  
(要 旨)

実施日 平成 24 年 9 月 6 日 (木)

実施場所 札幌市役所本庁舎 地下 1 階 3 号会議室

## 平成 24 年度 第 1 回埋蔵文化財展示室更新検討委員会 会議要旨

<<会議概要>> \* \* \* \* \*

### 1. 開催日時・場所

平成 24 年 9 月 6 日（木）18:00～20:00

札幌市中央区北 1 条西 2 丁目 札幌市役所本庁舎 地下 1 階 3 号会議室

### 2. 出席委員氏名（五十音順、敬称略）

川名広文、越田賢一郎、小杉 康、古原敏弘、平間吉春

### 3. 事務局氏名

文化部長 杉本 雅章

文化財課長 本間 敬規

埋蔵文化財係長 仙庭 伸久

埋蔵文化財普及啓発担当係長 藤井 誠二

埋蔵文化財係 石井 淳

乃村工藝社 福田 良一、木野 聡子、森 信博

### 4. 傍聴人

なし

### 5. 会議次第

(1) 開 会

(2) 文化部長挨拶

(3) 事務局説明

(4) 議 題

1) 平成 24 年度検討委員会の進め方について

2) 展示室更新案についての検討（その 1）

(5) 閉 会

### 6. 会議資料

「札幌市埋蔵文化財展示室更新基本方針」

## 1. 開 会

### (1) 文化部長挨拶

平成 24 年度の埋蔵文化財展示室更新検討委員会の開催にあたり、主催者である札幌市観光文化局文化部長より挨拶があった。

### (2) 事務局説明

会議は、札幌市情報公開条例の趣旨に鑑み、公開で開催。また、会議要旨は、札幌市文化財保護審議会の公開に関する取扱要領に準じて取扱うこととし、要旨をとりまとめ次第、ホームページに公開し、併せて埋蔵文化財センター事務室に備え付けることを確認。

第 1 回検討委員会開催にあたり、阿部委員、右代委員、加藤委員、深澤委員より、欠席の旨、連絡を受けたことについて報告。

また、本検討委員会は、昨年度より継続で実施・運営することから、座長・副座長についても継続して越田委員を座長、川名委員を副座長とすることで出席委員の了承を得た。欠席委員の方々には、後日、了承を得ることとした。

## 2. 議 事

### 議題 1 平成 24 年度検討委員会の進め方について

座 長：今年は、昨年に引き続きまして、展示室の構成を考え、基本計画ということを作っていくわけですが、決して長い時間ではございませんので、できるだけ速やかに会を進めていきたいと思っております。委員の皆様のご協力をいただければと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。まず、平成 24 年度検討委員会の進め方につきまして、事務局のほうからご説明いただければと思います。

事務局：今年度の目標といたしましては、本委員会での意見交換をもとに展示室更新の基本計画を取りまとめまして、あわせて基本設計を作成する予定です。本委員会につきましては、2 月末頃までをめぐり 4 回の実施を考えております。続きまして、パブリックコメントの結果、それから、基本方針についてご説明させていただきます。委員の皆様には、8 月中旬に基本方針を送付させていただきましたが、パブリックコメント手続きの結果に関しましては、基本方針の 12 ページから 14 ページにまとめて掲載してございます。昨年度末に取りまとめた基本方針案について、今年の 5 月 18 日から 6 月 18 日までの 32 日間について、市民意見を募集いたしました。案の公開につきましては、ホームページへの掲載、市政刊行物コーナー、文化財課、埋蔵文化財センター、各区役所総務企画課へ関係資料を配付したところがございます。その結果、7 名の市民の方から、合計 18 件の意見が寄せられました。寄せられた意見につきましては、内容をまとめた上で、意見に対する市の考え方とあわせて整理し掲載したところがございます。結果的に、案を修正するには至らないとの判断から、基本方針案にパブリックコメント手続きの結果を追加した形で『基本方針』として策定し、8 月 7 日付で公表したところがございます。『基本方針』の公表につきましては、案の公表と同様、ホームページに掲載したほか、市政刊行物コーナー、文化財課、埋蔵文化財センター、各区役所総務企画課に配布し、公表したところがございます。この基本方針に関しましては、修正がなかったことから、最終的に変更した点はございませんが、昨年度の検討委員会のおさらいをするという意味で、第 5 章の埋蔵文化財展示室更新の基本方針の部分についてのみ、再度確認をさせていただければと思います。

(以下、『基本方針』の内容について説明)

## 更新のコンセプト

- ①最新の発掘調査の成果の展示を行います。(アイヌ文化期の出土資料を新たに展示)
- ②旧石器時代からアイヌ文化期までの通史展示を行います。
- ③収蔵資料を生かした可変展示を取り入れます。

## 展示手法

- ①最新の情報を発信できるように、可変性の高い展示手法を取り入れます。
- ②木製品や金属製品などの展示資料の希少性・耐久性に配慮した展示手法を充実させます。
- ③展示室の狭小さや収蔵資料の不足を補うために、他の博物館・資料館との連携を図ります。
- ④児童・生徒が主体的に学習できる体験メニューの充実を図ります。
- ⑤外国語の表記を取り入れます。
- ⑥環境負荷を軽減できる展示手法を導入します。
- ⑦ユニバーサルデザインに配慮します。

## 運営

- ①展示解説の内容や方法を工夫し、解説メニューなどの充実に努めます。
- ②中央図書館と併設された特徴を生かし、学校教育や生涯学習での相互利用の機会を増やして、連携を深めます。

以上、『基本方針』について再度確認をさせていただきました。

座長：パブリックコメントの質問、それに対する市の考え方などについてご意見などはございますか。ひとつ私から、遺跡公園の構想が札幌市にございましたが、今どんなふうに進んでいるのか説明いただけますでしょうか。

事務局：現在、1回目の検討委員会を調整している段階です。具体的なものはまだ何も決まっておらず、これから今年度の検討委員会、測量調査を予定しているところです。

座長：そちらとの連携ということも考えていく必要があるかと思いますが、ほかにご意見がなければ、議題1につきましては、ここで確認したということで、次に進ませていただきます。議題2につきましては、展示室更新案についての検討ということでございますけれども、第2回目に具体的な内容が示されるということですので、今日は、その前に、どういった内容のものを考えておられるのかをお聞きして、方向性といったところで各委員さんから意見を伺えればと思います。それでは事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは、展示構成と展示手法について説明させていただきたいと思います。基本方針の10ページの3に載っております展示構成を踏まえて、より展示の中身を具体的なところまで詰めております。まず、展示ゾーンとして大きく4つのゾーンを考えました。導入展示、メイン展示、サブ展示、体験コーナーとしましたが、導入展示というのは、基本方針の中で示しましたガイダンス展示、これを導入イメージということに位置づけました。ガイダンス展示の中身としまして、三つ考えております。ひとつは、札幌の埋蔵文化財としまして、札幌市N30遺跡から出土した札幌市指定有形文化財の土偶を、象徴的な展示物として入ってすぐのところ展示をしようと考えております。それから、その隣ぐらいのところ、札幌市内の遺跡分布状況を紹介できるような市内遺跡分布図を示したいと考えております。編年表につきましては、旧石器、縄文、擦文、アイヌ文化期といった各時代の大まかな流れを一目で理解していただけるような表を用意しまして、その表の中で、世界史、日本史との時代的な比較を見ていただきながら、時代の流れを理解してもらおうと考えております。それから、速報展示につきましては、発掘した一番新しいものの情報をどんどんお示しできるようなコーナーにしようと考えております。次に、メイン展示としまして、通史による体系展示及びテーマ展示としました。これは、基本方針の中で、最新の発掘調査成果を取り入れた旧石器時代からアイヌ文化期までの通史

展示、収蔵資料を活かしたテーマ展示というふうには書かれておりまして、ここを一つのくくりとして、メイン展示としております。この通史展示につきましては、当然のことですが、埋蔵文化財センターが保有している各時代の資料につきましては、できる限り実物で展示していこうという考え方でございます。旧石器、縄文、続縄文、擦文。オホーツク文化につきましては、擦文の近辺に少しですが展示をしようと考えています。あえて構成の中には入れませんでした。省くつもりはないと考えております。それとアイヌ文化期。最後に、テーマ展示として、特に可変展示ということ意識しているのですが、何かテーマを決めて可変的に展示をしていこうと考えております。それから、サブ展示とした発掘の歴史と埋蔵文化財センターの仕事ですが、これは、札幌における発掘調査の歴史について、旧琴似川地域の竪穴住居跡分布図などを中心に紹介していきたいと考えております。埋蔵文化財センターの仕事については、現状で大きなスペースをとっていますが、コーナーとしては縮小して紹介していきたいと考えております。それから最後に、体験コーナーでございますが、やはり小学校高学年以上の子供たちを対象とした体験アイテムを用意しまして、ハンズオンの体験、現在もやっている火起こし体験に加え、新たに土器パズルのようなものを設置したいと考えております。それと、パソコン検索Q&Aと、そちらはそのまま利用していきたいと考えております。以上が、ざっとではありますが、今考えております新たな展示構成についてです。

次に展示手法ついてですが、配慮するポイントとして、①、②、③と④、⑤を同じようなポイントとして配慮したいと考えています。①は、展示替えが容易なケースを整備。②につきましては、基本的に空調のしっかりした施設ですので、自然換気というものを基本としまして、エアタイトが必要な資料に関しては、そのケースの中に別途アクリルケース等を用意するというような考え方をしております。③は、運営にかかわってくる部分なので、今回は余り深く突っ込んだ考え方をしておりませんが、イベント等の開催時に連携を模索していくというようなことを考えています。それから、④、⑤は、火おこし体験、タッチパネルなどの体験メニューを充実する。一般市民、観光客、外国人、子供、高齢者など、すべての利用者に対して負担を軽減する展示を行うということを考えております。具体的な内容につきましては、今後の検討になるかと思えます。言語表記に関しましては、スペース的な問題もありますので、基本的に日本語と英語での表記を行う方針で考えております。それ以外につきましては、別途リーフレットを作成して配布するというような考え方はです。⑥は、資料への負荷を軽減するために、熱の発生が少ないLEDを採用する。現状、レフ球ですとかハロゲン球というような、熱を発生するような、さらに言うと、紫外線を出すような電球を使用しておりますが、これはすべてLEDの照明に交換したいと考えています。それから、⑦は、子供、高齢者、障がいのある方の利用を考慮したデザインということで、設計の中にそういったユニバーサルデザインをきちんと取り入れていこうという考えでおります。以上ざっとですが、展示構成と手法について説明させていただきました。

座長：どうもありがとうございました。展示構成及び展示手法についての説明でしたけれども、委員の皆様の方から、今の説明に関しまして、ご意見等はございますでしょうか。

委員：通史展示の考え方だが、オホーツク文化については、そのような交流があったことを示すということであって、オホーツク文化の内容をここで詳しく説明する必要はそれほどないかと思う。擦文文化と同時併存した隣接する文化、それとの関係という形で話をするとき、実際そういう搬入土器が入っていますので、それを素材にして説明するという形がいいのではないかと思う。同じように、旧石器からアイヌ文化期までということも、すべてを同じトーンで、同じ分量で出すことはいいのかと。北海道の歴史が札幌の埋文センターの展示でみんなわかってしまうというよりも、基本的なコンセプトというのは、札幌で展開した人類文化の歴史ということだと思うので、各文化で非常に濃密な出土をしているものは、当然そこにウエートが置かれるべきです。例えば旧石器の資料は少ししかありません。

よね。むしろ旧石器の段階では、都市形成のあり方で、まだその準備が、活動するような場所は余り札幌市の中で、地形としてなかった。あるいはあったとしても、その後の環境変化、海面変動なんかでなくなってしまった。そういう具体的なあり方を提示するほうが、札幌市の旧石器文化の段階でいいのであって、これを見れば北海道の旧石器文化がわかるというようなことではないのではないかと思います。それは、オホーツク文化も同じように、オホーツク文化のことがわかるというのではなくて、擦文文化を展示しながら、この地域の擦文文化がオホーツク文化とどうかかわってきたかという内容を盛り込んだほうがいいのではないかと思いますのですがいかがでしょうか。

事務局：ご指摘のとおり、まさにそのように考えておまして、通史展示と言っておりますが、各時代を同じ分量で同じように語っていくというのは到底不可能だと考えておりますし、札幌市の持っている特徴としまして、擦文時代の資料が多いということが言えると思います。そういったことも物量で示すことで、札幌市の埋蔵文化財のあり方といいますか、そういったものを見せることが可能だと思いますし、オホーツク文化につきましても、オホーツク文化とは何だったのかということ、漠然とは説明するのですけれども、札幌にオホーツク文化があったということではなく、むしろ交流ということを理解をしてもらうような展示をする必要があると考えております。

座長：オホーツク文化、それから縄文、旧石器、すべての時代を全部やりますと大変なことになるので、当然いろいろな強弱がつくかと思うのです。特に、テーマ展示は、この部分が一つの年表みたいなのがあって、その中のものをどうつなげていくのか、どこに札幌の特徴があるのかといったことを出す展示になるのではないかと私は思っております。その辺は、具体的に、均等に時代を割るのではなくて、ある程度めりはりをつけたほうが面白いものになるという気がしております。それから、特に、アイヌ文化期を新たに設けるということについては、何かご意見はございませんでしょうか。

委員：擦文が多いということなので、どうしてもその次のアイヌ文化期について、まず最初に思ったのは、擦文から続いてきて、アイヌ文化期の資料を出すときに、どうやって説明を連続させるのかということ。それと、これからそのコーナーのタイトルなどいろいろ考えていくときに、「アイヌ文化期」という言葉はそのまま使っているのかといったこととか、その辺の用語の使い方だとかに気をつけながら、どういうふうにつなげていくかということがちょっと難しいという気もしています。北大の構内から擦文の遺跡が続いていますけれども、その後のアイヌの集落と必ずしも重なっているわけでもない。アイヌ集落の場所がわかっているならば、その辺も使いながら、時代が変わっていくことも説明できるのかなと思いつつ、今ちょっと、ここのアイヌ文化期のところを見ていたのです。具体的に今の段階では、用語の使い方ぐらいしか考えつかないのですけれども。

座長：アイヌ文化期となると、アイヌ文化なのか、和人文化なのかわからないのですけれども、通史の問題がありますよね。擦文文化とアイヌ文化が札幌市の場合非常に区分しにくい、層的に同じ層から漆器が見つかるとか、そういった問題もあるので、そういうことも素直に、どう変わるだろうか、何が違うんだろうかということも出していく必要があるのではないかと。大した変わらないのではないかと。土器がなくなるのが限界になるのではないかと、木器の場合なんかかなりつながる面が基本的にありますね。

委員：ひとつ問題なのは、アイヌ文化期の出土資料は、本州から持ち込んだものが多いということ。アイヌの人たちが作ったもので、今持っているものどうまくつながらないかということ、その辺も難しい問題がある。今の民具につながるような話になっていけば、美々の遺跡のほうがまだ少しやりやすいかと思いますが。

座長：有機質の遺物が使えないので、この辺は別の遺跡で補うとか、そんな手法も考える必要がある。とにかくここで一番注意されるのはアイヌ文化期をどう取り扱うかということ。いろいろ批判も受けるだろうし、展示する側もよく考えていかないといけない部分かと思っております。それとはまた別になるが、

土偶はどの辺で使う考えなのか。

事務局：今考えているのは、正面の入り口から入ってすぐのところで、象徴的に見せたいと考えております。まだ空間のデザインは固まっていないのですが、一番札幌らしい遺物だと思いますので、象徴的に扱いたいと考えています。

座長：札幌では、精神性を持つ遺物は余り多くないのではないと思うが、この構成を見ていると、どちらかというと生活用具という部分が多いので、何かそちらのほうのテーマの中で取り上げられればいいのかという気がします。これは私の意見ですが、そのほか何か、構成、展示手法なども含めて、ご意見ございませんでしょうか。

委員：確認したいが、可変展示を今予定しているのがガイダンス展示のところの速報展示と、メイン展示のところのテーマ展示になるのか。

事務局：通史展示全体につきましても、ケース全体が可変展示という考えです。あえて固定展示と可変展示と作る必要はないと思うので、可変可能な展示ケースを用意して、その中で固定の部分もあってもいいと思いますが、基本的には、ケースそのものは全部、可変可能なケースと考えております。

委員：自主的に定期的に変えていくということですね。

事務局：内容につきましては、もう少し今後の検討が必要かと思いますが、例えば各時代を代表するといえますか、そういったものは固定の展示でもいいのではないかと考えておまして、展示される各時代の資料のボリュームに左右されるのですが、代表となるような資料につきましては固定展示をして、ただし、その中身につきましては、一部可変にしていけるようなことができればいいのではないかと考えています。擦文時代であれば、擦文の代表的なものは固定展示にして、空いたスペースは可変にしていこうという考え方です。

座長：具体的な案が出てこない、なかなか検討できない部分もあります。あともうひとつ、札幌市内の主な遺跡の説明がございまして、説明の後にもう少し話を続けていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

事務局：埋蔵文化財展示室は、平成3年に開館しましたので、当時は、平成3年までに発掘された資料から展示室を構成していたということになります。展示している資料の数は、写真、イラストパネルを含めて、おおむね400点前後になります。ここでは、平成3年以降に発掘された市内の主な遺跡ということで、いくつかの遺跡について説明させていただきます。時代順で縄文早期からピックアップすると、まず、T71遺跡ですが、平岸天神山にある遺跡になります。縄文時代が主体の遺跡で、早期、中期、後期、晩期の遺物が見つかっています。次に、S329遺跡は、白石神社のところの縄文期の遺跡になります。T539遺跡は最近発掘した遺跡で、月寒東に所在しています。これも縄文時代と続縄文時代が主体の遺跡ということになります。縄文中期では、平岸天神山のT71遺跡。それから、C143遺跡というのは円山のふもとの遺跡で、中期から後期の遺物が見つかっており、後期初頭が主体の遺跡になります。T151遺跡は、あやめ野中学校のところの遺跡になります。これも縄文時代中期から後期が主体になります。M459遺跡は、柏丘にある縄文時代の遺跡。これも縄文時代前半から続縄文、擦文も出ているのですが、主体となるのは縄文時代の遺物となります。それから、K518遺跡は、札幌北高校にある遺跡で、続縄文、擦文、アイヌ文化期のものがそれぞれ出ているのですが、縄文中期の遺物も出ています。縄文時代後・晩期になりますと、やはり資料として充実していると言えるのがN30遺跡、これは皆さんご存じのように、二十四軒のJR琴似駅のすぐ近くにありまして。ここは後期というより晩期が主体の遺跡になります。1次調査では、縄文晩期が主体でしたが、2次調査では、続縄文の前半期から擦文時代のものが見つかっています。縄文時代後期では、N156遺跡があります。これは手稲前田にある遺跡で、いわゆる手稲遺跡のすぐ横のところになります。ここは平成10年頃に調査され、ここでも各時代の遺物が出ていますが、主体となるのは縄

文後期の遺物ということになります。それからC424遺跡、中央卸売市場にある遺跡です。ここも縄文時代から続縄文と擦文も出ています。縄文晩期で充実した資料が見つかった遺跡としては、N30遺跡ということになります。続縄文になりますと、前半期としては、N30遺跡の第2次調査があり、続縄文から擦文の資料が非常に良好な状態で見つかっています。H37遺跡は、丘珠空港の中にありますが、ここでは続縄文時代の前半期の遺物が主体的に出てきています。H317遺跡は、さとらんどにある遺跡です。続縄文時代の前半期、それから擦文の後半期のものが見つかっています。続縄文の後半期に関しましては、C507遺跡があります。これも中央卸売市場の中にある遺跡ですが、土壇墓などが見つかっています。それから、K514遺跡というのは、篠路周辺にある遺跡になります。これも続縄文時代の後半期の遺物が見つかっています。K528遺跡は、北区と東区のちょうど境目にあるのですが、つど一む、丘珠空港の北西側にある遺跡です。ここも続縄文時代の後半期のものが見つかっていますが、主体は擦文時代になります。C537遺跡は、桑園小学校にあります。ここも最近の発掘ですが、擦文と続縄文の遺跡で、続縄文の後半期のものが非常に良好に出てきているところで、量的にも比較的充実しています。C544遺跡は、北4条西18丁目にある遺跡で、ここもごく最近発掘した遺跡です。縄文時代の遺物が若干出ていますが、主体になるのが続縄文の終末期です。ここもかなり充実した資料になります。次に擦文時代ですが、調査数がかなり多くなってきます。K36遺跡というのは、武蔵女子短大の北側になります。先ほど座長がちょっと触れておりましたが、擦文の住居の中から漆器が出ているという遺跡になります。K39遺跡の第4次調査地点は、JR桑園駅の北側です。竪穴住居が密集して見つかったところで、ここではかなりの量の須恵器が見つかっています。K39遺跡第6次調査地点は、現在も一部展示しておりますけれども、これは北大のエルクトンネルのところの調査で、木製品がたくさん見つかったところです。ここでは、擦文時代全般を通して、土器も非常に豊富に出ているところになります。K113遺跡は、北35条西6・7丁目にある遺跡で、市内では初めて竪穴住居の柱根が見つかっています。H317遺跡は、先ほども言いました、さとらんどの遺跡で、十数軒の住居が見つかっています。C424遺跡は中央卸売市場の遺跡で、ここでも数軒の住居が見つかっています。K499遺跡、K501遺跡は、篠路地区の宅地開発のときに見つかった遺跡で、こちらは主に擦文時代の遺跡です。続縄文も一部出ているのですが、アイヌ文化期の資料も見ついているというところです。C504遺跡は、JR桑園駅の南側にジャスコがございしますが、ジャスコのすぐ横で見つかった遺跡です。これは小規模の発掘だったのですが、非常に良好な状態で竪穴住居が見つかっています。K518遺跡は、先ほども言いましたけれども、北高の遺跡。H519遺跡というのは東苗穂にあります。さとらんどのすぐ東隣になるのですが、ここでも擦文時代の竪穴住居が十数軒、非常に広い範囲で見つかりまして、ここでは鍛冶関係の遺物なども出ています。K528遺跡は丘珠空港の北側のところです。最後に、アイヌ文化期の主な発掘資料がある遺跡としては、K499遺跡、K501遺跡、これは篠路の遺跡になります。主に鉄製品がまとまって見ついているところになります。K518遺跡は北高です。北高でも墓が見つかりまして、状態は良くないものの、鉄鍋などが見つかりました。長くなりましたが、ざっと平成3年以降に調査された主な遺跡ということで紹介させていただきました。

座長：ありがとうございました。紹介していただくと、遺跡はいろいろあります。遺物もたくさんあるだろうと思います。これをどう並べるかということがこの会の中心になっていくのだろうと思います。今の説明のところ、何か聞いてみたいことはございませんか。アイヌ文化期の資料としては、アイヌ民族の副葬品はどの程度出ていましたか。どんな種類と。

事務局：鉄鍋とか太刀の類い、あるいは刀子類などは比較的豊富に出ております。それ以外では細かい鉄片が多いのですが、K501遺跡などでは、ある程度まとまって出ております。K518遺跡では、墓と考えられるものが1基見つかりまして、そこから鉄鍋と、太刀と考えられる鉄製品が見つ



かっております。こちらは、保存処理もしているのですけれども、残存の状況は余りよろしくないということになります。K499遺跡については、K501遺跡と同様なのですけれども、量的には501遺跡のほうがまとまっているということになります。

座長：漆器はどのくらい出ていましたか。

事務局：漆器は、K501遺跡で出ております。ただ、漆器につきましても、非常に残りが悪く、こちらの遺跡で出ているものについては、表面の部分、塗膜しか残っていないような状態です。

座長：ありがとうございました。あと、何か聞いてみたいことはございませんか。よろしいですか。そろそろ時間も迫ってまいりましたので、今日はこのぐらいいしたいと思いますが、次回、具体的な展示案が提案されるというふう聞いておりますので、そこでより具体的な話がでるかと思えます。それから、あまり荒唐無稽な話をしてもしょうがないので、どの程度の予算で、どの程度のものができるのかということもある程度押さえておく必要があるかと思えます。例えばジオラマにしても、昨年この話がたくさん出ておりましたが、ジオラマひとつ作るだけでかなりの金額がかかると思えます。できることとできないことは当然出てきますから、その辺りも押さえていければと思っております。今日は、さわりの部分の説明となりましたが、これから具体的に入っていきますと、本当に細かい意見が出てくると思えます。委員の方々の意見を事務局のほうで受けとめていただいて、また、事務局としても、ここはこうしたいんだということをはっきり委員のほうに提示していただいて、ここで論議する場をつくっていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 閉会

以上をもって、平成24年度第1回埋蔵文化財展示室更新検討委員会を閉会とし、第2回目の同検討委員会開催について、日程調整の時期や大まかな予定内容について連絡し、同検討委員会を終了した。

■ 次回 第2回埋蔵文化財展示室更新検討委員会開催は、日程調整のうえ正式告知

この会議要旨は、事実と相違ないことを証明いたします。

平成24年12月11日

埋蔵文化財展示室更新検討委員会委員

署名人 川名 宏文

署名人 平間 吉春